

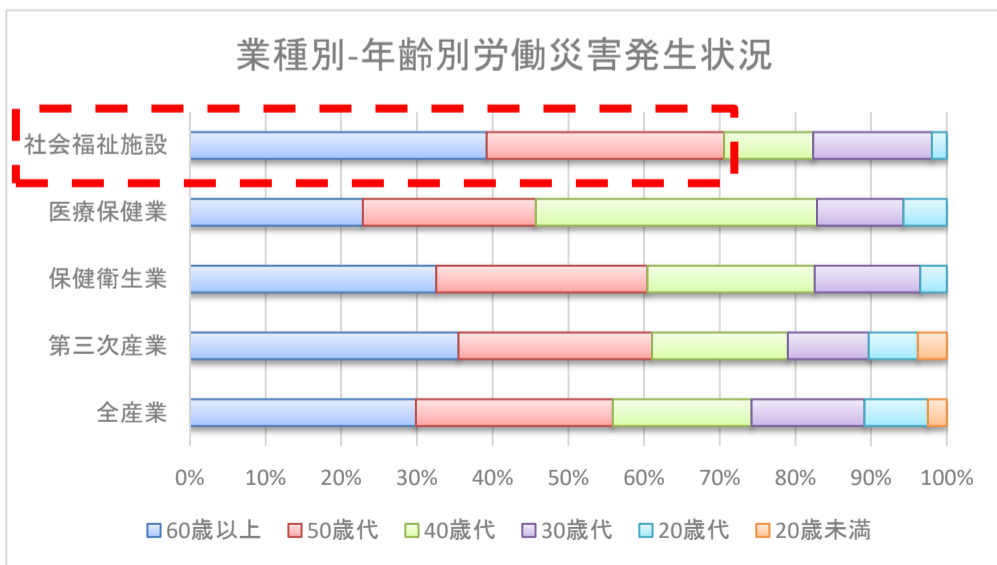
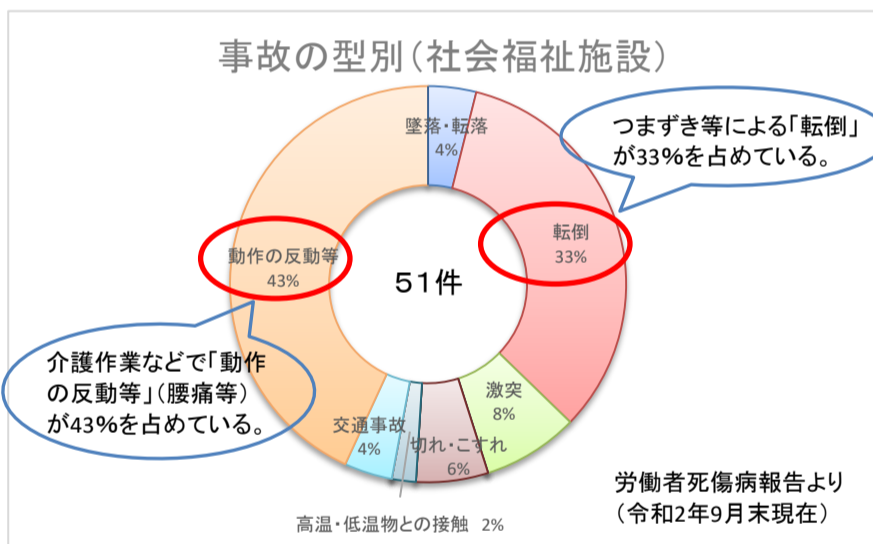
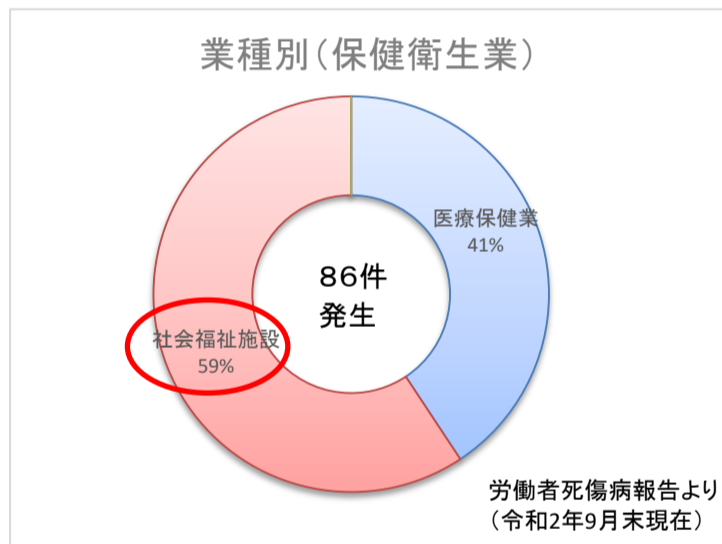
STOP！ 労働災害

社会福祉施設における 高年齢労働者の災害が増加傾向！

長崎労働基準監督署管内において、社会福祉施設における高年齢労働者の労働災害が増加傾向にあり、特に60歳以上の労働者が**39.2%**の割合で被災されています。

災害の型別で見ますと動作の反動等(腰痛等)**43%**、転倒**33%**と高い割合で発生しており、高年齢労働者の特性に配慮した職場環境や作業方法の改善などが求められています。つきましては裏面のリーフレット等を活用していただき、より一層の労働災害防止対策に取り組んでいただきますようお願いいたします。

令和2年の労働災害発生状況(休業4日以上)



社会福祉施設において、60歳以上の被災労働者が約4割を占めており、50歳以上の被災労働者は7割を超えています。

高年齢労働者は、若年労働者に比べ被災した場合に休業日数が長くなるなど、その程度が重くなるという傾向があります。

高年齢労働者は、一般に豊富な知識と経験を持っていること、業務全体を把握した上での判断力と統率力を備えていることが多いことなどの特徴がありますが、一方で加齢に伴い心身機能が低下し、労働災害発生の要因の一つとなっています。



●安全衛生管理体制の整備について

労働安全衛生法では社会福祉施設の業種は安全管理者又は安全衛生推進者の選任義務がありません。
しかしながら、社会福祉施設において労働災害が多発していることから、常時10人以上の労働者を使用する事業場の安全管理体制を充実し、労働災害防止活動の実効性を高めるため、安全推進者を配置し、職場環境の改善や安全意識の啓発などに関する事項を行いましょ。

「安全推進者の配置等に係るガイドライン」

検索

●転倒災害防止について

当署管内において社会福祉施設の労働災害(休業4日以上)において、約3割を占めている事故の型は「転倒」です。
床面や通路は、くぼみや段差のない滑りにくい構造にする、床の濡れや油汚れなどは放置せずその都度除去する、履物はつまずきや滑りにくいものにする、階段に手すりを設置するなどの対策を行いましょ。
段差や滑りやすいなど危険な箇所には「見える化」(注意喚起の表示)などの取り組みも有効です。
以下のチェックリスト、資料を参考に転倒災害防止対策に取り組みましょ。

転倒の危険をチェック☑してましょ！

1	通路、階段、出口に物を放置していませんか	
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	
3	安全に移動できるように十分な明るさ(照度)が確保されていますか	
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	
5	作業靴は、ちょうど良いサイズのものを選んでいますか	
6	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていますか	
8	ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか	
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	

「STOP! 転倒災害プロジェクト」

「働く人に安全で安心な店舗・施設づくり推進運動」

「職場の危険の見える化(社会福祉施設等)実践マニュアル」

「社会福祉施設向け転倒・腰痛防止用視聴覚教材」(職場のあんぜんサイト)

検索

●腰痛災害防止について

当署管内において社会福祉施設の労働災害(休業4日以上)において、最も多い事故の型は「動作の反動等(腰痛等)」です。
職場で腰痛を予防するには、労働衛生管理体制を整備した上で、「作業管理」・「作業環境管理」・「健康管理」と労働衛生についての教育を総合的、継続的に実施することが重要です。
作業姿勢や動作、作業標準の策定、作業空間の確保、腰痛予防体操の実施など腰痛予防を促進ましょ。
以下のチェックリスト、資料を参考に腰痛災害防止対策に取り組みましょ。

腰痛の危険をチェック☑してましょ！

1	重量物の取り扱い作業に関して、作業動作、作業姿勢、作業手順、作業時間などをまとめた作業標準がありますか	
2	腰痛のリスク、重量物を取扱う際の作業姿勢などについて教育(配置時など)を行っていますか	
3	人力で取扱う重量物の重量を制限していますか(満18歳以上の男性は体重の約40%以下、女性は約24%以下)	
4	上記の重量制限を超える場合には、身長差の少ない2人以上で作業するなど作業方法を定めていますか	
5	常時行う重量物取扱い作業は、リフターなどの使用により省力化していますか	
6	ストレッチを中心とした腰痛予防体操を行っていますか	

「社会福祉施設の労働災害防止(介護従事者の腰痛予防対策)」

「社会福祉施設における安全衛生対策(腰痛対策・KY活動)」

「社会福祉施設向け転倒・腰痛防止用視聴覚教材」(職場のあんぜんサイト)

検索

●高齢労働者の労働災害防止について

社会福祉施設における労働災害のうち7割以上が50歳以上、うち約4割が60歳以上の方が被災されています。
近年、高齢労働者の労働災害が増加傾向にあり、労働災害の防止に向けての取り組みが喫緊の課題となっています。
災害の特徴は床でつまづきによる転倒、介護作業等による腰痛などが多く目立っており、高齢労働者に配慮した作業環境や作業方法等の改善が求められます。
高齢労働者が働きやすい職場環境の整備や働き方の見直しを行うという視点も重要であることから、「エイジアクション100」のチェックリストを活用し、高齢労働者の労働災害防止の推進を図りましょ。

「エイジアクション100」

「エイジフレンドリーガイドライン」

「高齢介護施設における雇入れ時の安全衛生教育マニュアル」(中央労働災害防止協会)

検索

【お問い合わせ先】長崎労働基準監督署 安全衛生課
〒852-8542 長崎市岩川町16-16 長崎合同庁舎2階 TEL 095-846-6392